

OUR APPROACH

関連するSDGs



小水力発電を起点に地域価値を創出 明電グループが主導する広島発の 産官学民による価値共創プロジェクト

人口減少に伴う地域経済の減衰やインフラの老朽化、自然災害の激甚化など、様々な課題を抱える広島県の中山間地域。解決の一助として、地元の小水力発電を起点とした新たな価値共創・社会イノベーション創出に挑む者たちのストーリー。

想像を飛躍させるほどの 化学反応を

戦後、山間部に地域経営の小水力発電所を多く建設し、農村の活性化などを図ってきた中国地方。カーボンニュートラルの潮流や生成AIの普及に伴うデータセンター需要などの社会変化により、再生

可能エネルギーの一つである水力発電に再び注目が集まる中、明電グループの水車メーカー イームル工業をはじめ、明電舎、広島県内の企業、自治体などが2024年の春、「広島CSV[※]ラボ」を立ち上げました。計12団体・約30名のメンバーは、30代以下の若手を中心に、慶應義塾大学SFC研究所「社会イノベーション・ラボ」代表の玉村 雅敏教授の監修・助言のもと、小水力発電を起点とした地域と多様な主体とのつながりを醸成することによる社会課題解決や活力ある地域づくりを実現する社会システムの開発に挑みます。

プロジェクトではまず、庄原市と廿日市市における小水力発電を念頭に検討が進みます。アイデアの考案と並行しつつ、庄原市ではイーム

ル工業が地元の農業協同組合から譲渡された発電所を2026年の再稼働に向けて改修し、廿日市市でも、庄原での成果を元に、小水力発電を新規に設ける予定です。

ラボで検討するのは誰もがwin-winとなる価値を共創する仕組み。玉村教授▶「地域課題にアプローチするには、産官学民といった多様な主体の協働が必要。地域課題そのものに加えて、課題を取り巻く産官学民が、相互に影響し合う『つながり』のネットワークが機能するかどうかが大切で、それが機能しないと、身動きできず、更なる課題が生まれてしまう。技術に支えられた、時間軸が長く、持続的に機能する『水力発電』は、カーボンニュートラルといった“環境面”や、安定的なエネルギー供給などの

※CSV=Creating Shared Value【共有価値の創造】

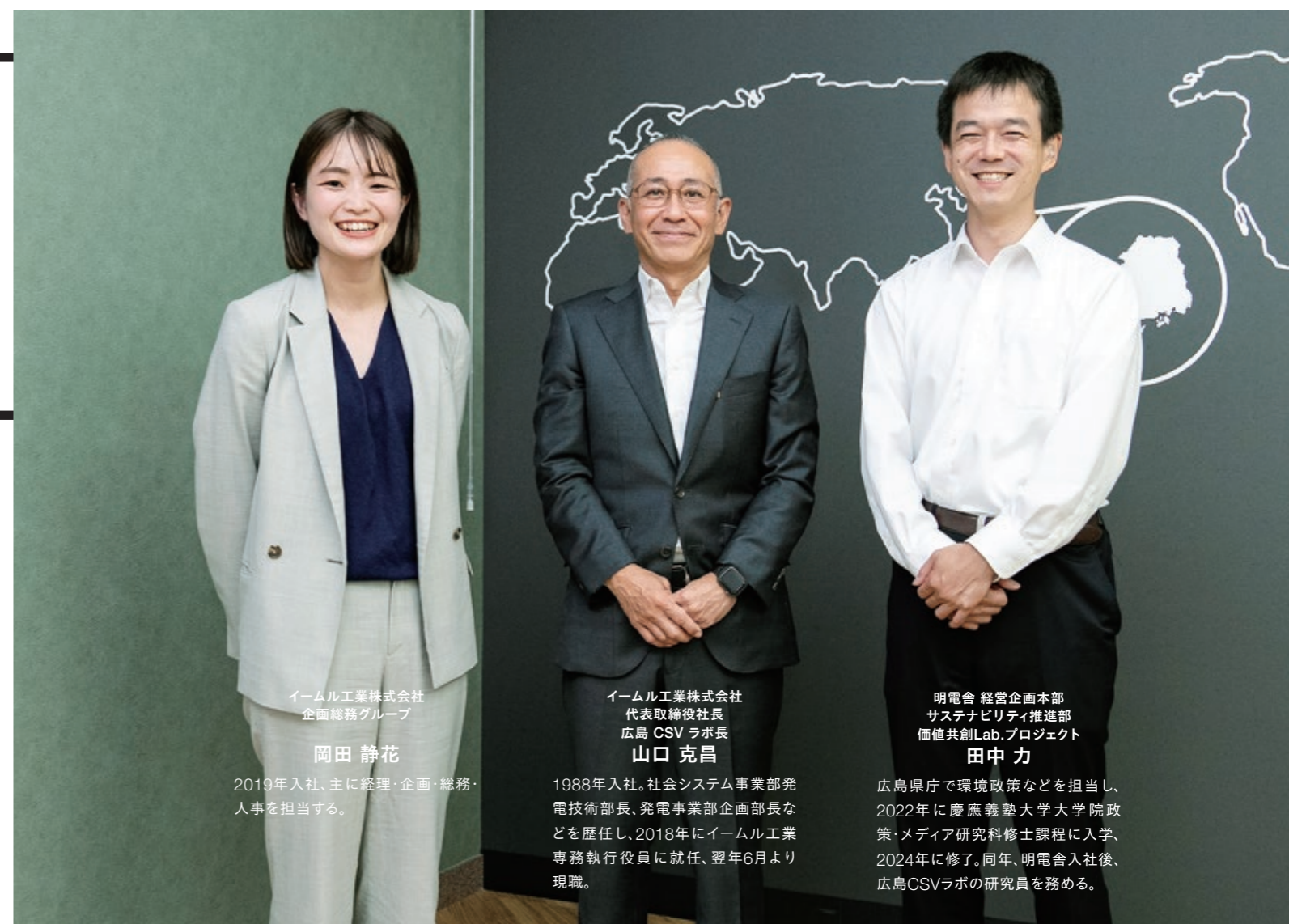
広島県、廿日市市、慶應大学 玉村教授、イームル工業、明電舎のラボメンバー

FOCUS パートナーシップで多様な価値を共創する

イームル工業をはじめ明電グループには、挑戦するマインドや未来のあり方についての長期的な視点を持った人財が多いたると感じています。これまでのラボでの検討から、水力発電を起点として多様な価値を共創するパートナーシップへとつながっています。今回の広島モデルを広島や全国各地で具現化していただき、更にはグローバルにも広げていっていただきたいと思います。



慶應義塾大学 総合政策学部教授
SFC研究所「社会イノベーション・ラボ」代表
玉村 雅敏さん



イームル工業株式会社
企画総務グループ

岡田 静花

2019年入社、主に経理・企画・総務・人事を担当する。

イームル工業株式会社
代表取締役社長
広島 CSV ラボ長

山口 克昌

1988年入社。社会システム事業部発電技術部長、発電事業部企画部長などを歴任し、2018年にイームル工業専務執行役員に就任、翌年6月より現職。

明電舎 経営企画本部
サステナビリティ推進部
価値共創Lab.プロジェクト

田中 力

広島県庁で環境政策などを担当し、2022年に慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程に入学、2024年に修了。同年、明電舎入社後、広島CSVラボの研究員を務める。

“経済面”に加えて、中山間地域と都市部との持続的な『つながり』や、地域協働での多様な『つながり』を生み出し、地域課題にアプローチできるようになるといった“社会面”での効果が期待できる。地域に密着した、未来の水力発電は、この3つの側面での相乗効果がある仕組みとして機能させることが求められている。」

山口▶「突拍子もないが、『eスポーツタウンの設立』みたいなアイデアでも良い。電気の使い方によっては、回りまわって『偉大なアスリートの輩出』といった夢にもつながりうる。エネルギーを大胆に化学変化させ、地域活性化や雇用創出、若い人たちの希望につなげたい。」

広島モデルを世界に、 価値共創の波を広げる

月3回開催されるラボの研究会では、小水力発電の仕組みや新技術に関する学びの他、全国各地での地域活性化策や中山間地域の課題に関する有識者を交えた議論などが行われます。年内を目処にアイデアを固め、実装に向けた準備を進める計画です。

岡田▶「仕事では出会えない業界の方たちの視点を学べる。ここで得た知見を元に少しでも貢献できれば。」

田中▶「多様な組織、年齢層の方が参加し、新たな示唆が得られる

活発な意見が出ている。アイデアが多岐に分散されつつ、目指すべき社会の方向性や原点が共有される場になることに期待したい。」

他の再エネに比べて、より安定的に電力供給でき、地元密着型のエネルギーである水力発電。未開発ながら、潜在的に水力発電所建設に適した「包蔵水力」が国内には数多く存在するとされています。再エネ由来の電力の価値が更に高まることが予想される中、ラボの取組みが同様の課題を抱える国内、世界への水平展開モデルとなる可能性をメンバーは見据えています。

広島、明電グループから「世界へ。」無限の可能性を秘めたラボのハイライトは、まだ先にあります。